

自分を大切に

鴨宮中学校 三年 中地 雅妃

私は今の日本の社会に対して疑問に思うことがある。それは日本人の謙虚な態度から自分の才能や能力を潰してしまっているのではないかということだ。日本人は世界から見ても謙虚で、気遣いができ温厚な性格といわれることが多いだろう。これは日本人が言われて嬉しいことなのか。そう考えたとき一般的に嬉しいという印象の人の方が多いのかもしれない。しかし私はこういう印象だと聞いても嬉しいとは答えないと思う。

私は生活をしている中でイライラしたり、なんでこうなるのかと考えたりすることがある。その原因として考えられるのは考え方の食い違いだ。具体的に、何人かで遊びに行くというときに人に合わせたり、聞いても聞いた側が提案するまで濁らされたりするなどという、私側と相手側での考え方の食い違いによって面倒になるという経験が何度もある。また他の例を挙げると先生や周りの大人になせこうなるのか、どうしてそうなるのか、などという日常生活での素朴な疑問を聞いても、相手側のプライドなのか分からないが、はつきり答えてもらえないということが多々ある。この二つの例で共通して言えることに気づいた。それは相手側の自分自身の意見、考えに対する自信のなさ、本当はこうしたいけれど相手にどのような反応をされるのか心配だ。間違えたことを言ってしまったらどうしよう。自分は大人だからという謎のプライド。このような不安な気持ちや自分の中でプライドを守ろうとする気持ちは、気弱さや自己肯定感の低さに繋がり、自分の意見をはつきり言わない、あるいは言えないということにも関連してくるのではないかと思う。しかし、日本人の性格だから良いというシチュエーションもある。本当のことを言わなくてはいけないが、今言ってしまうと相手の逆鱗に触れる可能性がある場合は遠回しに物事を伝えるという本音と建前の使い分けが重要になることもある。これは日本人の特徴の気遣いができるという良い面なのではないかと私は思う。本音と建前はこの例の場合、プラスに捉えることができる。これをプラスのイメージに保つためには使い分けが本当に重要なことなのかもしれない。自分にとって目上にあたる人に対して本音ばかりぶつけてしまうと失礼になり、その人との友好関係が崩れてしまう。クラスや会社などの大人数での話し合いがあるとき、永遠に建前を言うと言が決まらず時間が過ぎる。この二つの例を見れば重要性の意図がよく分かるだろう。

私はこの夏ニュージーランドへ遠征に行った。そして行く前の外国人のイメージと実際の外国人のイメージを比較した。客観視して比較すると行く前、行った後で共通してフレンド

リーという言葉がパツと浮かんだ。これがニュージーランドの文化というのはあるかもしれないが、人とのすれ違い様に手を振ると振り返ってくれる。話しかけると会話してくれる。このようなことは日本で体験したことがなかった。もし日本ですれ違い様に手を振ったら、もし日本で知らない人に気紛れで話しかけたら、恐らくだが気まずそうに苦笑いをされるか、見て見ぬ振りをされるだろう。これは本当に文化だけの違いなのだろうか。私はそうは思わない。ニュージーランドでサッカーの試合をした日の夜、交流会が行われた。もちろん自分から話しかけてくれるし写真を撮るときは自分から前が出る。欲しいものは欲しい。要らないものは要らない。知っていることは教えてくれるし、知らないことは分からないとはっきり伝えてくれる。今の日本という国をより良い世の中にするためには、はっきり、明確に、ということを念頭に置くべきだ。私はそう思う。

日本人はもっと自分の考えや意志を大切にすべきだと思う。我慢して後悔するのなら素直に意志を表現して後悔する方がいい。本音をぶつけたら相手とのこれからの関係が。そんなことを気にしている暇があるのなら気持ちをぶつけあえばいい。このようなことで崩れてしまう人間関係ならば、一生関わらなくていいというくらい甘いと思う。私はどんな状況、立場におかれたとしても常に自分の意志を持つようにしている、そのためには周りを見て色々なことを考え続けなければならない。とても難しいことだが、これができたら自分にとってプラスのリターンが大きくなってくるのかもしれない。そのためにもまず自分が影響力を与えられるような人になり、身近な人から日本、世界の人が自分を大切にし、様々な可能性を見出し、才能を開花させるべきだと思う。